



「こだいら人財の森」 スタートして半年たちました！

こだいら人財の森って何？

（人と地域をつなぐマッチング事業）

仕事をリタイアしたり子育てから少し手が離れた方々から、「何か楽しくて有意義なことをしたい」という声を聞きます。一方で、市民活動団体の中には、人手や技術が足りず困っている団体もあります。そういう時には、まず「こだいら人財の森」にお問合せください。市民が持っている様々な経験や技能、何かしたいという気持ちと、団体のニーズを結びつけます。

具体的には何をするの？

●個人……まずは「やりたいこと」や「できること」を登録！

* 登録できるのは市内在住、在勤、在学の18歳以上の人、もしくは市内で活動している団体に加入している人です。

●団体……どんな助っ人がほしいか具体的に登録！

* 登録できるのは、あすぴあ登録団体、自治会・町内会およびあすぴあが別に指定する団体です。

* 詳しくは「こだいら人財の森 利用のきまり」をご覧ください。

人財の森専門員が希望に沿う個人と団体を引き合わせます。

希望に合わない場合は違うマッチングを検討します。

◎個人も団体もその登録内容は「こだいら人財の森」サイトで公開しています。

こんな方々をつなぎました。

●昔遊び応援団

市内小学校の放課後こども教室で伝承遊びを教えています。子どもに工作を教えることに興味があるという方から見学の希望があったので受け入れ、「できる範囲で手伝いたい」と言われまして、今では団体の一員になってくれました。



●みんなでつくる音楽祭 in 小平実行委員会

音楽祭のホームページを作ってくれる人を求めて登録しました。ご紹介いただいた方は専門のスキルをお持ちで、私たちの要望に合わせて指示を差し上げた通りのホームページを制作していただきました。非常にスピーディーに作業を進めていただき助かりました。



●小平・ワーカーズまちの縁がわ ちっちゃいおうち

介護予防こだまちサロンの事業として、短時間でできる講座等を考えていたところ、ネイルサロン衛生管理士の方を紹介していただきました。普段あまり気にかけない正しい爪の切り方とケアの仕方を教えていただき、丁寧に相談にも乗っていただけて大変ありがたかったです。

◎マッチングが完了した事例は「こだいら人財の森」サイトで公開しています。

<https://kodaira-shiminkatsudo-ctr.jp/jinzaino-mori>

こだいら人財の森

検索

あすぴあ登録団体 &
市民活動団体の紹介

こんな活動をしています

Vol.
29

取材を希望する団体は
あすぴあまでお知らせ
ください。広報部会
の部員が伺います！



マジックむさし会

小平には2つのマジックサークルがあります。そのひとつ「マジックむさし会」の実演を見学し、会長の太田史郎さん、副会長の中嶋英明さんにお話を伺いました。



クは見るのも楽しいけれど、実演はもっと楽しい」。中嶋さんは「お客様の反応がうれしい」と話します。

以前、鈴木小学校からオファーがあり、授業の一環でマジック道具を作るところから指導。参加した生徒さんたちにもマジックをしていただき大好評だったそうです。

現在、小平市には、マジックむさし会と小平マジッククラブの2つのグループがあり、小平マジック連合会を作っているとのこと。11月17日（日）には、中央公民館ホール（2階）で連合会主催のマジック発表会があるそうです。

太田さんは「初心者に丁寧に指導します。ぜひマジックを見る側からやる人になってほしい」と話していました。（伊）

DATA

電話 &FAX ●042-341-8604 (太田史郎)

メール ●shiro1944@jcom.home.ne.jp

昔遊び応援団

9月4日午後2時半から、小平市立小平第一小学校で行われた放課後子ども教室で、昔遊び応援団が「プラとんぼ」を子どもたちと作って遊ぶ活動をすると聞いて、行ってみました。

羽ヶプラスチック製のプラとんぼ



▲たくさんの子どもたちで
大賑わいの教室



▲1人1人丁寧にアドバイス

会場の「夢の広場」と書かれた教室に入ると、受付と「プラとんぼ」を作る台が2つあって、その先は「プラとんぼ」を飛ばす広場になっていました。集まった子どもは24名、男女半々ぐらいでしたが、ランドセルを置くと先生の周りに集まり、先生の話を聞き、放課後子ども教室が始まりました。

昔遊び応援団のメンバーが子ども達に「プラとんぼ」のプラスチック製の羽根とそれを飛ばす細い棒を渡すと、プラとんぼ作りが始まりました。プラスチックの羽根を切り抜き、その中央の穴に細い棒を差し込みます。作業をしながら「どうするの？」、「これでいいの？」と、子ども達は聞いてくるのでメンバーは子どもが持っているものを見ながら答えます。子どもとメンバーが一つになって作業している光景を見ていると、参加したくなります。

プラとんぼができあがると、子どもは飛ばし始めます。うまく飛ばない子どもが多いので、メンバーが羽根を見たり、飛ばし方を見て、「こうしたら」「ああしたら」とアドバイス。それで問題が解決すると、子どもたちは楽しそうに広場でプラとんぼを飛ばし、拾っては飛ばし、疲れを知りません。段ボールの箱で飛んでいるプラとんぼを捕まえようとする子どももいました。

楽しい1時間半の「放課後子ども教室」が終わり、子ども達が帰って、ホッとする時間のメンバーの表情を見ると、疲れは感じられず、楽しそうでした。これが昔遊び応援団の楽しさなのでしょう。昨年は5つの小学校で45回やったそうです。代表の菊地征夫さんは、「メンバー16名、これ以上回数を増やすことはできないが、子ども達に役立つ活動は続けていきたい」といいます。

今年12月、結成してから5年になる昔遊び応援団、これからも小平の子ども達に楽しさ、喜びを与えてください。

（北）

DATA

電話 &FAX ●042-323-1977 (菊地征夫)

メール ●yng.kikuchi@celery.ocn.ne.jp